

ふいんてっく通信

～ Vol.4 ～

現金からキャッシュレスへ、道路交通編

Fintechとは、金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた造語です

nikko am
fund academy

「フィンテック、キャッシュレスって、よく分からないから使いたくない」といった声を聞くことがあります。でも、日常生活で現金を使わずに会計を済ませた経験があるのではないのでしょうか。今回は、道路交通のフィンテックをご紹介します。

■ 窓を開けずに通過するだけ

一昔前、有料道路の料金支払いは、料金所で一時停止して窓を開け、現金を渡してお釣りと領収書を受け取り、後ろを振り返ると料金所渋滞！？でした。それが、今は減速するだけで一時停止することなく、ETC(自動料金収受システム)カードを車載器に差し込んでおけば支払いができるようになりました。

ETCは、車に搭載したETC車載器とETCカードが料金所ゲートのアンテナと無線通信することで支払が完結する仕組みで、これこそがフィンテック、キャッシュレスなのです。



※イラストはイメージです

ETC導入で、

- ✓ 利用者は料金所通過の際のストレスがなくなり、通行料の割引サービスなどが受けられる
- ✓ 高速道路などの運営会社は、料金所での人件費削減を含めた運営管理費用が削減できる

などのメリットが享受できたのです。

■ ますます便利になるETC

ETC利用率は、全国で一般サービスが開始されてから10数年が経ち、すでに90%を超えています。

2016年には情報提供などの新サービスが追加された次世代「ETC2.0」がリリースされ、利便性が高まっています。具体的には…

- ✓ 有料道路をいったん降りても追加料金不要
(一般道路の“道の駅”を利用した場合)
- ✓ 渋滞時に最適な迂回ルートを把握
(交通情報の範囲が最大約200kmから、カーナビ連動で最大1,000kmへ)
- ✓ 安全運転支援や災害時の安全な避難を支援
(渋滞末尾や障害物、画像などの情報提供)

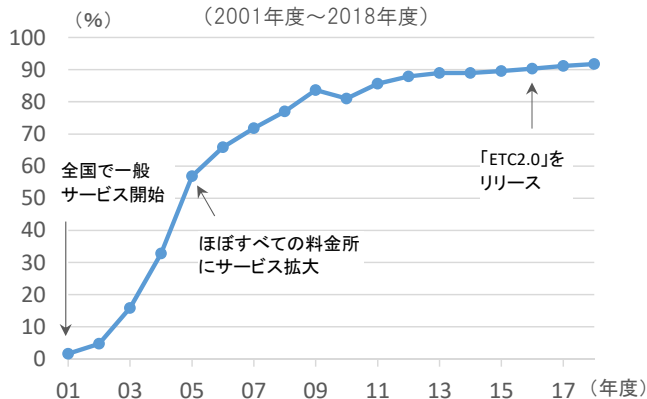
などのサービスを受けることができます。

今後は、駐車場の予約・料金支払い、カーフェリーの乗船手続き、物流トラックの効率的な運航管理支援などのサービスが予定されているようです。

ETCは、フィンテックの技術とITS(高度道路交通システム)技術の進展で、より多くの情報が受けられるようになり、今後も利用者にとって魅力あるサービスの範囲が広がっていくことでしょう。

【ETC利用率の推移】

(2001年度～2018年度)



出所：国土交通省の情報を基に日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントがフィンテックに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。